

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	デイサービスまりも平野東		
○保護者評価実施期間	2026年2月1日		2026年2月25日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	9人	(回答者数) 6人
○従業者評価実施期間	2026年2月1日		2026年2月25日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	14人	(回答者数) 14人
○事業者向け自己評価表作成日	2026年2月26日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者からの子育ての悩み等への相談支援体制	日常的な送迎時や連絡帳、電話等を通じて保護者が相談しやすい関係づくりを意識し、子育てに関する悩みや不安に対して迅速かつ丁寧に対応している。必要に応じて面談の機会を設け、家庭状況やニーズを踏まえた助言や具体的な支援方法の提案を行っている。	定期的な面談機会の確保や相談内容の職員間共有を進め、支援の質の均一化を図る。また、関係機関との連携を強化し、専門的視点から保護者支援を行える体制づくりを進めていく。
2	保護者との情報共有と発達状況の共通理解	日々の活動内容や子どもの様子を連絡帳や口頭で丁寧に伝え、家庭での様子についても積極的に聞き取りを行うことで、保護者との双方向の情報共有を大切にしている。これにより、発達状況や課題について共通理解を持ちながら支援を実施している。	モニタリングや個別支援計画の説明を通して支援目標の共有をより明確にし、家庭と事業所が同じ方向性で支援できる体制を強化する。また、記録方法の統一やICT活用等も検討し、情報共有の精度向上を図る。
3	利用定員と支援スペースの適切な確保	発達支援室等のスペース面積や活動内容を踏まえ、利用定員を適切に設定している。活動スペースと落ち着いて過ごせる空間を分けるなど、子どもが安全かつ安心して活動できる環境づくりを行っている。	利用状況や子どもの特性に応じて活動環境を見直し、より個別性に配慮した空間設定を検討する。また、安全管理や動線確認を継続的に行い、快適で質の高い療育環境の維持・向上を図る。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	他事業所との深い連携	必要に応じた情報交換や連携は実施しているものの、定期的・継続的な連携体制の構築までは十分に至っていない。日々の支援業務を優先する中で、他事業所との交流機会やケース検討の場が限定的となっていることが要因と考えられる。	関係事業所との定期的な情報交換やケース会議への参加を積極的に行い、地域全体での支援力向上を図る。また、相談支援専門員や学校、関係機関との連携窓口を明確化し、継続的なネットワーク形成を進めていく。
2	保育園等との情報共有と相互理解	園との連携を取るは保護者が行ってくれている家庭が多数である。それに伴い緊急の場合職員が連携を図るなど対応している。	職員が園と連携を図る前に保護者を介して連携を図っている。今後は職員が保護者に声を掛けるなど連携不足がないよう努める。
3	家庭への情報提供	日々の連絡帳や送迎時の口頭説明等により情報提供は行っているものの、発達支援に関する知識や家庭で活用できる具体的な関わり方について、体系的かつ継続的な情報提供の機会が十分とは言えない状況がある。情報発信の内容や方法が職員ごとに差が生じやすい点も課題として認識している。	家庭での支援につながる資料配布やミニ通信、保護者向け情報発信等を計画的に実施し、家庭でも実践しやすい支援方法の共有を進めていく。また、職員間で情報提供内容を整理・共有し、誰が対応しても一定の質で情報提供ができる体制づくりを行う。